

女の世界は怖い。いじめ、眼とばし、何でもあるぞ。

牛群の社会的順位の構成に関する言葉である。乳牛の世界にもいじめが存在する。新しく群に入った牛は、その他の牛からいじめられる。これによりその牛は採食量の減少、休息時間の減少が見られ、乳量を減少させる。特に休息時間の減少が著しい。または、病気発生の原因（契機）となり得る。実際には、頭を付き合わせての闘争から、眼とばしまでの程度がある。ひどい時には、横断通路や水槽をボス牛が独占して、意地悪する事もあり得る。このために、水槽などは必ず2箇所準備するように言われている。サークル運動が必要といわれるゆわれもここにある。

従って牛群間の移動に関しては細心の注意が必要である。分娩直後頻りに群を移動すると、闘争のストレスにより病気の元を作る事になる。頭数が少なければ、すぐに順位が決まるので影響は少ないが、大きな群に産褥牛を入れる場合には、よく観察をしなければいけない。分娩直後牛は体力的にも弱くなっており、闘争では弱い立場にある。勿論初産牛も弱い立場にある。これに微熱でも加われば更に病気の発生を高める。分娩後の牛の乳量が伸びない原因が、こんな所にあるかもしれない。

初産のいじめられ牛  
乳房が貧弱である

牛の社会的順位（強さ）を決める要因

牛の大きさ（体重・体格）と年齢

搾乳後日数（分娩前後は弱い）

病気の存在 病牛は弱い 足の悪い牛は弱い など



牛の社会的順位を決める主たる要因は、強さでは体格差であり、弱さを決める要因は病気の存在である。大きな牛は強く、病気の牛は弱いのである。分娩後体温の測定をすると、微熱がある事が多い。まだ採食しているので良いかと判断し、群に導入すると次第に採食が出来なくなり、第4胃変位を引き起こす。分娩直後のストレスを察してやらねばいけない。そしていじめられる事も。

群移動後の社会的闘争は、3から7日間程度発生するそうである。群が大きければ長く続く可能性があるが、小さければすぐに解決する。又、顔見知りであれば、解決の時間は短くなるであろう。社会的闘争は、実際の頭を付き合わせての喧嘩ばかりではなく、威嚇でも起きえる。弱い牛は、じっと強い牛が移動するまで待つだけでも大きなストレスを感じている。

つなぎ牛舎からフリーストール移転直後が、この問題を最大化する。牛同士は隣同士しか知らないで、群を上げての闘争劇が始まる。すべての牛と階級闘争を繰り返さなければいけない。その結果、蹄を傷めて廃用となる。一方いつも運動場に出している牛舎では、すでに階級闘争は終了しているので、この問題は軽減される。新しい施設に慣れるだけとなる。移転後の新しいコンクリート病は、コンクリートの研磨だけでなく、この状況を察してやらねば解決しない。増しては待機場で、人と牛との闘争を繰り返してはいけない。蹄病を増やすだけである。

病気の予防を考えると、乾乳牛の群移動が大きな問題となる。乾乳牛舎が混み合えば、必ず多くの病気の発生を見る。特に乾乳後期群は、定員の80%が上限である。喧嘩してまで食べようとは思わないので、栄養不足を招く結果となる。採食に関するモチベーションが低いので、少しでも困難な事があると、採食を止めてしまう。乾乳牛1群TMRであっても、群は分けたが良い。